

1

海事産業に対する国民の理解増進の必要性

我が国は、四面を海に囲まれ海から多くの恩恵を受けており、また、我が国の輸出入貨物の99.7%が船舶によって輸送されており、安定的な海上輸送の確保は、我が国の経済、国民生活を支える上で極めて重要なものである。しかしながら、国民の海事産業に対する理解は必ずしも十分であるとは言えないのが現状である。

このような状況の中、2007年7月に施行された「海洋基本法」において、国民の間に広く海洋についての理解と関心を深める取組の必要性が規定され、また、2013年4月に閣議決定した新たな「海洋基本計画」においても、海洋に関する国民の理解増進のための取組について規定されたところである。

国民が海に親しむ機会を増やし、レジャーやクルーズ等の海洋観光分野を発展させるとともに、島国で資源に乏しい我が国の生命線ともいえる海運の現状及び重要性を理解してもらうため、効果的な海事思想の普及啓発活動が必要である。

2

海事産業に対する国民の理解増進に向けた対応

(1) 海の仕事.com

次世代の海事産業の担い手を育成し、青少年を中心に海への興味・関心を喚起し、海の仕事の魅力や重要性について認識を深めてもらうため、国土交通省と海事関係団体等が協力し、ポータルサイト「海の仕事.com」を運営している。

(http://www.uminoshigoto.com)

「海の仕事.com」では海の仕事を分かりやすく紹介するとともに、月に2回、練習船の一般公開やヨット体験教室などのイベントの告知の他、海事施設見学会等の報告をトピックスとして掲載するなど、多様な取組を紹介している。



(2) 海の月間

1996年より国民の祝日「海の日」が制定され、さらに2003年から「海の日」が7月第三月曜日になり三連休となったことを契機として、国民の祝日「海の日」を中心とした広い活動を展開していくため、7月を「海の月間」として、官民一体となり活発な広報活動を展開している。

その最大のイベントとして、毎年、全国の海にゆかりのある自治体において「海フェスタ」を開催している。今年新たに観光振興も加味し、2014年7月19日(土)～8月3日(日)の間、京都府舞鶴市を中心とする5市2町(舞鶴市、福知山市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)において海をテーマにした様々なイベントが開催される予定である。

海フェスタ京都パンフレット



(左) セイルドリルの様子 (右) 練習船の一般公開及びロープワーク体験
画像提供：(独)航海訓練所

(3) 海洋立国推進功労者表彰

科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く世に知らしめることにより、国民が海洋に対する理解を深めていただく契機とするため、2008年より国土交通省をはじめ5省庁が共同で内閣総理大臣表彰として、「海洋立国推進功労者表彰」を実施している。

2014年の第7回表彰では、「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野及び「海洋に関する顕著な功績」分野において5名3団体が受賞した。

●「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

江戸っ子1号プロジェクト
[深海を身近に引き寄せた純国産探査機の開発]

海洋政策研究財団（シップ・アンド・オーシャン財団）
[人と海洋の共生を目指した海洋政策確立への貢献]

窪寺 恒己（国立科学博物館標本資料センター）
[ダイオウイカの調査・研究を通じた深海生物に関する普及啓発]

武井 俊文（株式会社 IHI）
[我が国海洋産業の振興への貢献]

●「海洋に関する顕著な功績」分野

佐野 有司（東京大学大気海洋研究所）
[海洋地球化学の先端的研究開発]

新松浦漁業協同組合女性部
[漁村文化の伝承普及・地域活性化]

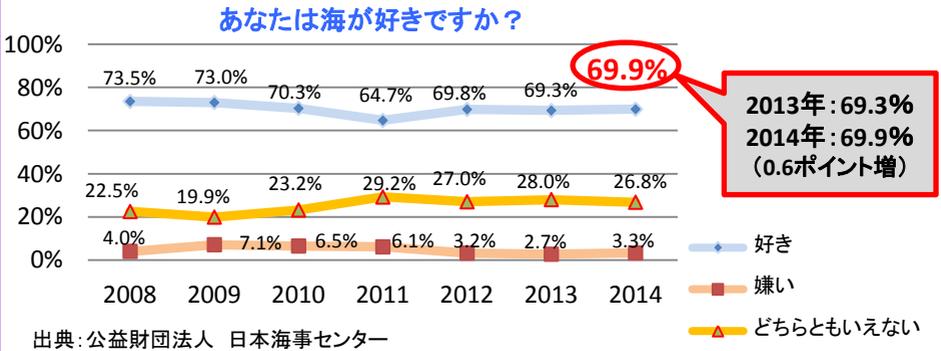
津田 尚輝
[産学官が一体となった日本主導による戦略的国際基準策定等のための仕組みの構築]

桜井 泰憲（北海道大学大学院水産科学研究院）
[海洋生物多様性保全に対する専門的助言]

（4）海に関する国民意識調査

国民が海に対してどのようなイメージを持っているか調査を行ったところ、2014年に「海が好き」と回答した人は、前年より0.6ポイント上がって69.9%となり、海に対しての好感度は上昇という結果となった。

また、年代別で見たところ、10代で「海が好き」と回答した人は、69.2%（昨年は56.9%）と急上昇しており、ヨット、水上オートバイなどのプレジャーボートを利用したマリンレジャーの人気の影響を与えている。



- 海が好き理由→「落ち着く/癒される/心が和む/リラックスできる」
- 海が嫌い理由→「汚い/汚れる/臭いが嫌/ベトベトする」

（5）ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞

海事産業に対する児童生徒の意識向上を図り、海や船への関心を高めることを目的として、（公財）日本海事広報協会が主催で全国の小中高校生を対象に海事産業に係る取材・調査をして新聞形式にまとめた作品を募集し、優秀作品を表彰している。2013年度は合計235点の応募があり、2014年3月27日に審査委員としてアグネス・チャン等を招き、優秀作品7点のプレゼンテーションが行われた。審査の結果、広島湾にて活躍する様々な船や造船所について紹介した、広島県江田島市立大古小学校の「2013船のおもしろ発見！新聞」が国土交通大臣賞を受賞した。



大古小学校の生徒によるプレゼンテーション



「2013船のおもしろ発見！新聞」

（6）海事産業に関する副教材

現行の学習指導要領において海運などの重要性は記述されておらず、小中学校の授業で海事産業について学ぶ機会が少ない。

このような現状を受け、（公財）日本海事広報協会が主催、国土交通省、海事関係団体が協力し、「海運」「船」「港」の重要性を盛り込んだ副教材を作成し、港湾都市の社会科教師らの協力のもと副教材を活用した授業を行っている。

2011年・2012年は広島県呉市、2013年・2014年は岡山県倉敷市において副教材を用いた授業をしているほか、作成した副教材を協力団体等のホームページで公開し、関心ある教師が自由に閲覧できるようにしている。





今年も海フェスタ

タがやってくる

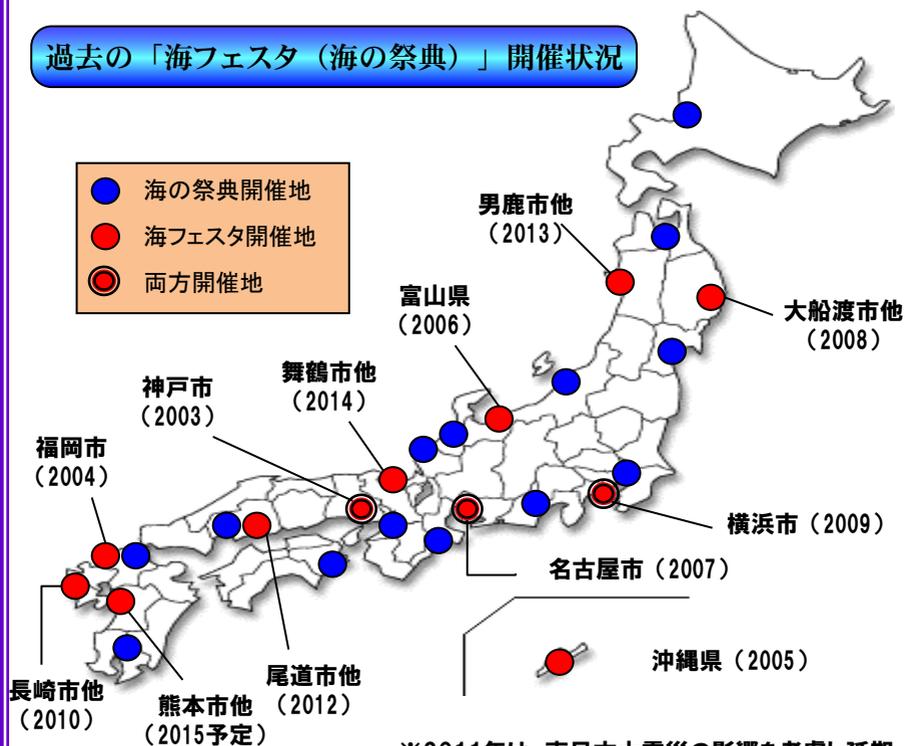


「海フェスタ」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、3連休をより有効に活用し、海に親しむ環境づくりを進めることを目的として開催されています。

1) 海フェスタの歴史

1986年から「海の祭典」として開催し、2003年から「海の日」が7月の第3月曜日となり3連休化されたことを契機として、同年から「海フェスタ」に改称して全国各地で開催されています。

過去の「海フェスタ（海の祭典）」開催状況



※2011年は、東日本大震災の影響を考慮し延期

2) 2014年海フェスタ京都～ 京都と結ぶ海の道～

●海フェスタ京都の紹介

2014年海フェスタは、インバウンドも含む観光振興により地域交流人口を増やし、地域活性化を図るという新たな目的も加味した形で、京都府北部5市2町（京都府舞鶴市、福知山市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町）において、7月19日（土）から8月3日（日）までの16日間、開催されます。



京都と結ぶ海の道

●海フェスタ京都の醍醐味

深海調査研究船「かいいい」、練習帆船「日本丸」「海王丸」、府海洋調査船「平安丸」などが入れ替わり舞鶴西港に着岸し、一般公開されます。

また、第8管区海上保安本部巡視船「だいせん」の一般公開や海上自衛隊展示訓練などもフェスタに合わせて実施される予定で、海上自衛隊地方総監部と管区海上保安本部が両方とも存在する唯一の場所である舞鶴ならではの醍醐味を味わえることになっています。

さらに、「さかなクンのお魚講座」、「造船所特別見学」、「海フェスタ京都記念花火」等、海に関するバラエティに富んだイベントが予定されています。



深海調査研究船「かいいい」



練習帆船「海王丸」



第8管区海上保安本部巡視船「だいせん」

3) 2015年海フェスタ

2015年海フェスタは、熊本県熊本市を中心とする7市1町（熊本市、天草市、荒尾市、宇城市、宇土市、上天草市、玉名市及び長洲町）において開催されます。海の総合展、海の絵画展・写真コンクールや港湾施設の一般公開のほか、地域の特性を活かした様々な行事を行う予定です。

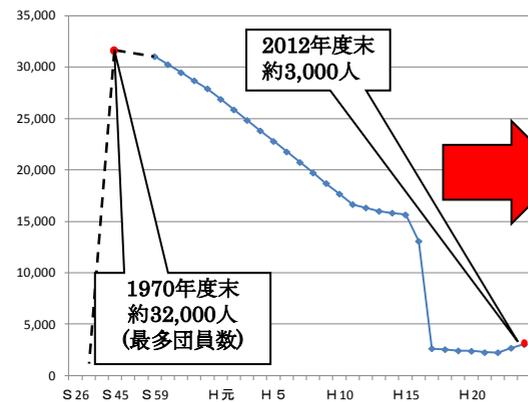


2020年の東京オリンピック 海洋少年団員

・パラリンピックまでに を一人に!!



日本海洋少年団は海洋国日本の時代の担い手である全国の少年少女たちに「海に親しみ」、「海に学び」、「海に鍛える」をモットーとして1951年に設立されました。団員数は1970年度の約32,000人をピークに年々減少し、現在は約3,000人となっております。そうした中で、将来の海洋国家日本を支える人材を育成するため、団員数を「2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックまでに1万人に復活させる」ことを目標として全国的に活性化策を進めています。



- ◆ 1970年度をピークに団員数は年々減少
- ◆ 2005年度の会費制導入後急激に減少、2011年度に会費制を廃止し、最近では微増
- ◆ 2012年度末の団員数は約3,000人

1) 既存団の活性化・団の新設

現在は、モデル地区として舞鶴海洋少年団の活性化及び大分県佐伯市における新団設立を進めています。舞鶴海洋少年団については、現地協議会を設置する等活動を進めた結果、2014年4月26日に新規入団者10名を迎え、3年ぶりに入団式が開催されました。

また、佐伯市については、5月から団員の募集を開始し、7月20日に結団式を実施する予定となっております。

他の地区においても、活性化連絡会の設置や新団設立の話が出ており、活動の活性化が期待されています。



【舞鶴海洋少年団の入団式】

2) 海洋少年団の活動

手旗信号、結索、カッターボート、ヨットや、海上自衛隊・海上保安庁による体験航海を行うなど、日本海洋少年団連盟のプログラムに基づき、全国各地にある団が独自に活動しています。

また、奉仕活動も積極的に行っており、海岸や街の清掃奉仕、水難救済活動のための青い羽根協同募金をはじめ、各種募金活動などを通して奉仕の心を養っています。

今後は、進水式、体験乗船、ウィンドサーフィン等体験型活動を向上させ魅力化を図っていきます。



- ①: 手旗信号
- ②: カッター
- ③: 体験乗船
- ④: 公益活動
- ⑤: 野外活動

3) 指導者の確保

現在、海洋少年団の指導者は、卒団者（OB）をはじめとして、学生、教師、海上保安官等が占めていますが、団の指導者不足が深刻な問題となっております。

海洋少年団の指導者は、手旗信号やロープワーク、ヨット等の操船ができる、オールマイティの指導者というイメージがあるかもしれませんが、まず優先されるのは、子どもが好きで、海洋少年団運動に関する理解と熱意、少年少女の人格を尊重すること、そして責任感です。

手旗やロープワークの指導は別途、外部講師でも対応可能ですので、海技免許や教員免許を有していたり、海洋分野で一芸に秀でていらっしゃる方等であれば、指導者として十分なスキルがあると考えております。



【指導者募集パンフレット】



海と船フェア IN アクアマリンふくしま



2014年3月22日（土）、23日（日）の2日間、福島県いわき市の水族館「アクアマリンふくしま」において、小中学生に海や船について興味、関心を持ってもらうことを目的として、第6回海洋立国推進功労者表彰を受賞されたアクアマリンふくしま安部義孝館長の協力のもと、「海と船フェア in アクアマリンふくしま」と題し様々なイベントを開催しました。両日で来場者は7000名を超え、沢山の方々に参加していただきました。



【アクアマリンふくしま】

～ イベントの概要 ～

●海と船のクイズラリー

「船員」「船舶」「海運」をテーマに館内の順路に沿ってクイズパネルを設け、パネルの内容をもとに子供たちに問題を解いてもらう「海と船のクイズラリー」を行いました。

全問正解者には船に関する景品をプレゼントするなどし、たくさんの小中学生に船や海運について楽しみながら学んでもらいました。



【クイズラリーに参加する子ども達】

●キッズ絵画展

いわき市小名浜地区の小中学生を対象に「船と未来」をテーマとした絵画を事前募集し、集まった絵画を春休みの間、館内に飾る「キッズ絵画展」を開催しました。計339名の小学生からの応募があり、思い思いの船の絵を描いてくれました。

●ポンポン船作り教室

大人には懐かしいポンポン船を親子で手作りする教室を開催しました。自ら作った船をプールに浮かべ、ろうそくの熱エネルギーで動く姿に子ども達は歓声をあげていました。

●巡視船一般公開

福島海上保安部のご協力のもと、巡視船「なつい」の一般公開を行いました。普段は見ることのできない船内や操舵室も公開し、実際に活躍している船を見てもらうことで、船への親しみが持てるような機会になったのではないかと思います。また、（独）航海訓練所にご協力いただき、船長服を着ての写真撮影会も実施しました。



1



2



3



4

- ①:キッズ絵画展
- ②:ポンポン船作り教室
- ③:巡視船一般公開
- ④:写真撮影会

～ その後 ～

「キッズ絵画展」に出展してくれた小学生76名を招き、4月25日（金）にいわき市小名浜港にて、体験乗船及び施設見学会を開催しました。

船内では、船員の仕事や港の役割などの説明の他、操舵室の見学を行い、働く船員の姿を間近に見学することができました。



私たちが担当しています(第7章全体)
総務課海事振興企画室